

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

私たちの国日本は、多くの国々と交流しながら独自の発展をしてきました。

渡来人たちの指導で古墳が¹つくられ、仏教も朝鮮半島の国から日本に伝来しました。飛鳥の地には、美しく立派な寺院と光り輝く²仏像が多数つくられました。平城京では、東大寺の³大仏づくりは国をあげての大事業でした。

遣唐使により中国との交流は盛んでしたが、9世紀の終わりころから12世紀の半ばころまでは、日本の人々と外国との交流はあまりありませんでした。この間、平安京を舞台に、貴族たちは中国からとりいれた文化を消化し、日本風のものをうみだしていき⁴ました。

鎌倉幕府が開かれたころ、日本の人々は中国の宋と盛んに交流をしました。しかし、13世紀になると、モンゴル族が元という王朝を中国に建て、日本に攻めてきました。日本は二度にわたって元と戦いました。

鎌倉幕府が倒れると、室町幕府が京都にできました。中国の王朝も明にかわり、幕府は日明貿易によって莫大な利益を得、また僧侶の往来も盛んで、禅宗文化が武士たちに迎えられました。16世紀には鉄砲やキリスト教が伝来し、ヨーロッパの国々との交流がはじまりました。

徳川家康が幕府を開いたころ、日本の商人たちは幕府の許可を得て、積極的に東南アジアの各国に出かけました。しばらくとだえていた朝鮮との国交も回復し、朝鮮通信使がやってきました。このように、江戸時代の初めは外国との交流は盛んでしたが、やがて幕府は鎖国を⁶しました。外国との窓口は長崎の出島と【⁷】に限られ、幕府が貿易や海外の情報を独占することになりました。

19世紀になると、外国からの強い圧力のもとで江戸幕府は倒れ、明治政府が誕生しました。政府は、欧米の文化や技術を取り入れることで、欧米の国々に負けない強い国をつくろうとして多くの努力を重ねました。やがて日本は、欧米の国々と対等な関係に立つことができるようになりましたが、外国との戦争も行いました。

そうした中で、1930年ころ、世界中をおそった不景気は日本にも押しよせました。その後、日本と中国との全面戦争がはじまり、太平洋戦争が⁹おこりました。¹⁰

問1 下線部1の渡来人たちは、古墳がつくられていたころ、日本にそれまでになかった技術や文化を伝えました。紙・筆・酒のつくりかた、鉄のやり・刀などの武器、ガラス工芸や金の指輪などの装飾品、漢字や仏教などの新しい文化、用水路や寺院のつくりかたといった土木・建築の進んだ技術などです。

渡来人たちが日本に伝えた技術のうち、上に記載されていない重要なものを二つ答えなさい。

問2 下線部2に関する問いです。

A



B



上の写真A・Bについての説明①～⑤を読み、あとの問いに答えなさい。

- ① Aは韓国のソウル国立博物館にある弥勒菩薩像です。
Bは京都市の広隆寺に伝来する弥勒菩薩像とされる仏像です。
- ② Aの像は金銅像(銅を材料としてつくり全体を金メッキした像)であり、
Bの像は木像で現在は木肌が見えていますが、当初は金箔が貼られていました。Aの像とBの像は瓜二つといわれるほど似ていました。
- ③ Aの像もBの像も6世紀末から7世紀はじめにかけてつくられたと考えられています。Bの像は6世紀末から7世紀はじめには広隆寺にありました。

- ④ Bの用材は、調査の結果アカマツであると判明しました。アカマツは6世紀から7世紀に、日本にも朝鮮にもはえていました。
- ⑤ 6世紀末から7世紀はじめにかけての日本では、仏像の用材はクスノキで、アカマツを用材としてつくった仏像はありません。

説明①～⑤と、当時の日本と朝鮮との交流を考えて、Bの像がどこで制作され、また、なぜ6世紀末から7世紀はじめには日本に存在していたのかを説明しなさい。

問3 下線部3の大仏づくりについて述べた文として誤っているものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 聖武天皇が位についたころ、都では伝染病で多くの人々が死に、各地で飢饉や災害がおり、貴族の反乱もおこりました。聖武天皇はこれらのことを力強く解決し、天下の富と勢力を天皇が独占していることを示すために大仏造立の詔（天皇のことば）を発しました。
- イ 当時の技術では金銅像は数メートルの高さが限界で、16メートルの大仏づくりはむずかしい技術でした。工事の指導をしたのは渡来人たちの子孫で、すぐれた技術を用いて大仏づくりに大きな役割をはたしました。
- ウ 渡来人の子孫であった僧の行基は、道路や橋・ため池をつくるなど、農民のくらしを助けながら仏教の教えを広めていました。朝廷は人々をまどわしていると行基を弾圧しましたが、のちには大仏づくりに行基の協力を求め、行基もこれに応じました。
- エ 大仏づくりに必要な木炭・革・耐火石・粘土・鉄・朱などは、集めるだけでも何年もかかるものばかりでした。これらのものは日本全国から船や馬の背に乗せられて、奈良に運びこまれました。

問4 下線部4のことを示すことがらとして、やまと絵の成立や寝殿造りの完成などがあげられます。その他で下線部4のことを示す重要なものを一つ答えなさい。

問5 下線部5について述べた文章として誤っているものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 元との戦いでは相手が外国の軍だったので、武士たちは御恩として領地をほとんどもらえませんでした。そのうえ防備のための石るいづくりや戦費も負担させられたため、武士たちの幕府への不満は高まっていきました。

イ 竹崎季長は5人の家来を連れて元軍と戦いました。しかし、幕府からほうびをもらえませんでした。そこで季長は馬とくらを売って旅費をつくり、鎌倉へ行って幕府に訴えました。幕府は肥後の土地を与え、御家人となることを認めました。

ウ 元は朝鮮を従えて九州北部を攻めてきました。幕府の執権だった北条時宗は武士たちを九州に集め戦いました。1274年と1281年に、元は大軍で日本をおそいましたが、武士たちの勇ましい戦いぶりや暴風雨などによって大きな損害をうけ、引き上げていきました。

エ 『蒙古襲来絵詞』は『竹崎季長絵詞』ともいわれる絵巻物です。肥後の武士であった竹崎季長が自ら先頭に立って勇ましく戦った様子を描かせた絵巻物で、合戦のありさまとほうびをもらうまでの事情を知ることができます。

問6 下線部6の朝鮮通信使について述べた文章として正しいものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 朝鮮通信使は、日本と朝鮮との連絡を主な仕事とし、スペインやポルトガルなどヨーロッパ諸国の様子を朝鮮半島経由で知らせていました。

イ 朝鮮通信使は、500人もの使節団で博多に上陸し、陸路江戸に向かいました。途中各地で歓迎をうけ、その宿舎に大勢の人々がおしかけました。

ウ 朝鮮通信使は使節ともいわれ、将軍がかわるごとに、朝鮮の国王から派遣されました。使節によって木綿や絵画などがもたらされました。

エ 雨森芳洲は、朝鮮にわたって言葉や文化を学び、朝鮮通信使に同行しました。彼は、東アジアで初の通信制度を完成させようとし、朝鮮と交渉しました。

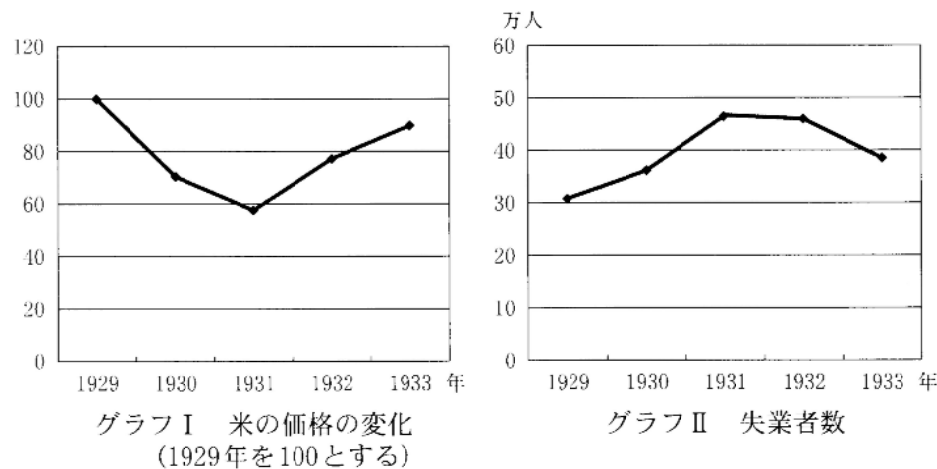
問 7 下線部 7 に関する問いです。

鎖国政策にもかかわらず、18 世紀半ばには長崎の出島を通じてヨーロッパの学問が入ってきました。杉田玄白らはオランダの医学書を翻訳し『解体新書』として出版し、その出版をきっかけとして、ヨーロッパの地理学・天文学・物理学・兵学などが紹介され、これらの学問が発展していきま

した。
幕府はこうした学問に対しては、なぜ規制や弾圧をしなかったのでしょうか、簡単に説明しなさい。

問 8 下線部 8 の【 】に適切な地名を入れなさい。

問 9 下線部 9 に関する問いです。



上の 2 つのグラフはこの時期の日本の不景気を表すものです。人々の生活はたいへん苦しいものとなりました。一部の軍人や政治家は満州に勢力をのばすことが、不景気から脱するための唯一の道だと主張しました。

その理由の一つは、満州(中国の東北部)を領土として、石炭や鉄鉱石などの資源を手に入れることです。満州を領土とすることで、国民の生活がよくなると考えるもう一つの理由はなんですか、簡単に説明しなさい。

問10 下線部 10 の太平洋戦争の原因について述べた文章として誤っているものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 日本は、石油などの資源を求めて東南アジアに軍隊を進め、すでにこの地で利権をもっていたり、また利権を狙っていた欧米の国々と対立しました。

イ 日本は、ヨーロッパで戦勝を続けていたドイツと同盟を結んだことで、イギリスやフランス、さらにアメリカとも対立を深めました。

ウ 日本は、自分の国の石油燃料がなくなっていくうちに、戦いの先手をとろうとして、1941 年 12 月 8 日、ハワイのアメリカ軍基地を攻撃しました。

エ 日本は、ソビエト連邦の軍が満州に攻めこんでこないうちに、満州とモンゴル、ソ連の三国の国境付近でソ連軍を攻撃しました。そのため、日本は、ソ連と同盟関係にあるアメリカと対立が深まりました。

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

第二次世界大戦後、日本はめざましい経済発展をとげ、世界でも有数の経済大国になりました。経済が発展するのにもとまって、人々の消費行動にも大きな変化がみられました。

1950 年に起こった朝鮮戦争は、日本の経済を回復させる大きなきっかけになりました。当時は連合国軍総司令部(GHQ)の占領下で、人々はアメリカの文化や製品にあこがれた時代でした。

1955 年ころから、日本は高度経済成長期に入りました。インスタントラーメンなどが売り出され、国民の暮らしははだいに大量生産と大量消費を背景にした新しい生活に変化していきました。1968 年には、日本の国民総生産(GNP)がアメリカにつぐ世界第二位になりました。レトルト食品などが登場し、自動車(カー)、クーラー、カラーテレビの「3C」が家庭に普及するなど、高い技術を使ったさまざまな商品がつくられるようになりました。東京や大阪、名古屋などの大都市では、郊外に大規模な住宅団地(ニュータウン)の開発も進みました。

1970年代におこった二度の石油危機(オイルショック)をきっかけに、日本の産業は大きく変わりました。自動車や電子製品など高い技術や知識を必要とする産業が中心になり、昭和50年代(1975年～1984年)には、ビデオテープレコーダーやコンパクトディスク(CD)、コンピュータゲーム機などが発売されました。また、コンビニエンスストアやファミリーレストランが各地にできたのもこのころでした。食生活が多様になり、海外からの食料品の輸入も増えました。

1980年代末から1990年代の初めにかけての時期は、バブル経済とよばれる空前の好景気で、高価な自動車や海外の高級ブランド製品が売れ、海外旅行者が急増し、グルメブームもおこりました。しかし、1990年代は一転して長い不景気の時代になりました。「価格破壊」という言葉が流行し、人々はできるだけ安くて良いものを求めるようになり、100円ショップやディスカウントストアが人気となりました。さらに最近、コンピュータの普及によって新たな消費行動もみられるようになっていきます。

問1 下線部1の第二次世界大戦後は、国際連盟にかわり国際連合(国連)がつけられました。国際連合やその機関についての説明として正しいものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 安全保障理事会は、常任理事国と非常任理事国によって構成されています。常任理事国は、アメリカ、フランス、イギリス、ドイツ、中国で、この5か国には拒否権があります。

イ ユニセフ(UNICEF)は、ユニセフ憲章にもとづいて、発展途上国で子どもを救済する機関です。かつて日本人の緒方貞子さんが事務局長を務めていました。

ウ ユネスコ(UNESCO)は、ユネスコ憲章にもとづいて設立された機関で、世界の自然や文化遺産を保護する活動をしています。

エ 国際連合は多くの国の分担金で運営されています。分担金を最も多く負担している国は日本で、次いでアメリカ、ドイツの順になっています。

問2 下線部2の高度経済成長期までの様子として誤っているものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 広島に原子爆弾が投下されたことを、翌日のテレビニュースで知っていた祖父は、カラーテレビを高度経済成長期に買い直しました。

イ それまで毎日たらいと洗濯板で洗濯をしていた祖母は、高度経済成長期に電気洗濯機を買い、洗濯がたいへん楽になったと話していました。

ウ 父の会社の作った電気冷蔵庫がわが家に届いたのは、高度経済成長期のことでした。母は氷を売るお店がつぶれることを心配していました。

エ 高度経済成長期には労働者が足りなくなり、中学を卒業してすぐに働く人たちは「金の卵」ともてはやされました。

問3 下線部3に関する問いです。

下の表は、それぞれ東京・大阪・名古屋の中心部から半径50キロメートルの範囲を、中心から10キロメートルごとにわけて、各10キロメートル範囲内の人口が1975年から1980年の5年間に増加または減少した様子を示したものです。

この表から読みとれる都市の発展の特徴について簡単に説明しなさい。

表 三大都市圏の人口増加率

	東京 50キロ圏	大阪 50キロ圏	名古屋 50キロ圏
	1975～80年の増加率(%)	1975～80年の増加率(%)	1975～80年の増加率(%)
0～10キロ	△ 6.3	△ 3.4	△ 0.3
10～20キロ	2.1	7.2	9.3
20～30キロ	9.2	8.4	11.1
30～40キロ	14.2	8.6	4.7
40～50キロ	16.1	3.1	4.6
計	6.4	3.7	5.4

※ 「△」の記号は、減少していることを示しています。

「日本国勢図会 1981年版」より

問 4 下線部 4 の 1970 年代の出来事として、誤っているものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 日中共同声明に続いて、日中平和友好条約も結ばれ、断絶していた日本と中国の国交が回復しました。

イ 国際海洋法会議によって、沿岸から 200 海里を経済水域とする国が増え、日本の遠洋漁業が衰退しました。

ウ 10 年近く続いたベトナム戦争からアメリカ軍が撤退し、南北のベトナムが統一されました。

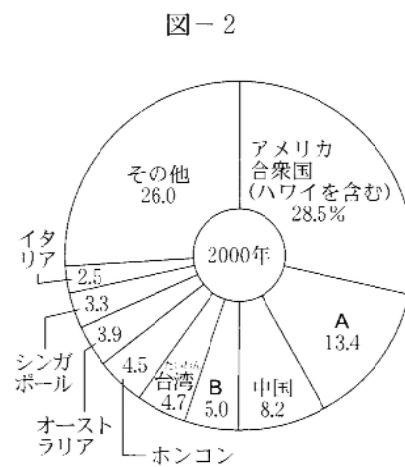
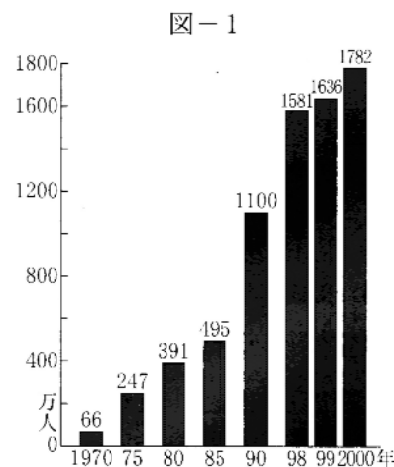
エ アジアで行われた最初のオリンピックである東京オリンピックが開催されて、敗戦から立ち直った日本の姿を世界に示しました。

問 5 下線部 5 に関する問いです。

日本は世界有数のエビの消費国で、海外からたくさんのエビを輸入しています。東南アジアの国々では、日本に輸出するためのエビ養殖がさかんですが、そのことがこの地域にある環境問題をひきおこす原因になっています。それはどのような問題ですか、具体的に説明しなさい。

問 6 下線部 6 に関する問いです。

図－1・図－2 について、I・II の問いに答えなさい。



「日本国勢図会第 60 版 (2002/03)」より

I 図－1 は、日本の海外旅行者数の変化を示したものです。1985 年に比べて、1990 年は海外旅行者数が急激に増加しています。その理由の一つは、この当時日本はバブル経済とよばれる好景気だったからですが、それ以外の経済的な理由を答えなさい。

II 図－2 は、2000 年に日本から海外に旅行した人の旅行先とその割合を示したものです。次の文章ア～オは、図－2 のうちのいくつかの国を説明したものです。図－2 中の A・B の国を説明した文章をそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア この国は、世界一の米の輸出国で、日本は 1993 年にこの国からたくさんのお米を緊急に輸入しました。近年工業化がめざましく、日本をはじめとする先進工業国の企業が多く進出しています。トムヤムクンなどのこの国の食文化も日本に知られるようになりました。

イ この国は、一つの大陸が一つの国になっています。日本とは季節が正反対になる位置にあり、真夏にクリスマスを迎えます。この国は日本へ牛肉や、石炭、鉄鉱石などを輸出し、日本が最大の輸出相手国です。

ウ この国は、日本とは古くから文化的な交流があったところです。現在の国は 1948 年に自由主義国として独立しました。2002 年には日本とともにサッカーの国際大会を開催しました。最近日本ではこの国のテレビドラマがブームになっています。

エ この国は、地中海に面した「長靴」の形をしていることで知られています。この国の首都の中に世界で最も小さい独立国である「バチカン市国」があります。日本ではパスタやピザなどのこの国の料理が人気です。

オ この国は、1949 年に社会主義国として独立しましたが、日本とは歴史や文化などの面で古くから交流があります。13 億人をこえる世界最大の人口をかかえる国で、ひとりっ子政策による人口抑制に努めています。

問 7 下線部 7 についての問いです。

図－3は1995年から2004年の10年間のCD(アルバムとシングル)の生産量を示したものです。図－3を見ると、近年CDの生産量は年々減少していることがわかります。これは、CDの売り上げが減ってきていることを表しています。

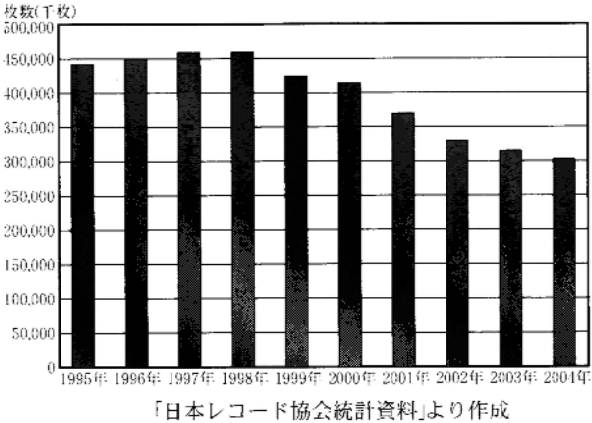
図－4は、耐久消費財(長期の使用に耐える製品)について、1999年から2004年までの5年間に所有数の増加率が大きかった製品と、所有数の減少率が大きかった製品の、それぞれ上位5品目を示しています。(二人以上の家族がいる1000世帯あたりの統計)

また、図－5は、2004年度のエンタテインメント(趣味・娯楽)関連の消費状況を示したものです。(半年間で使った金額の平均)

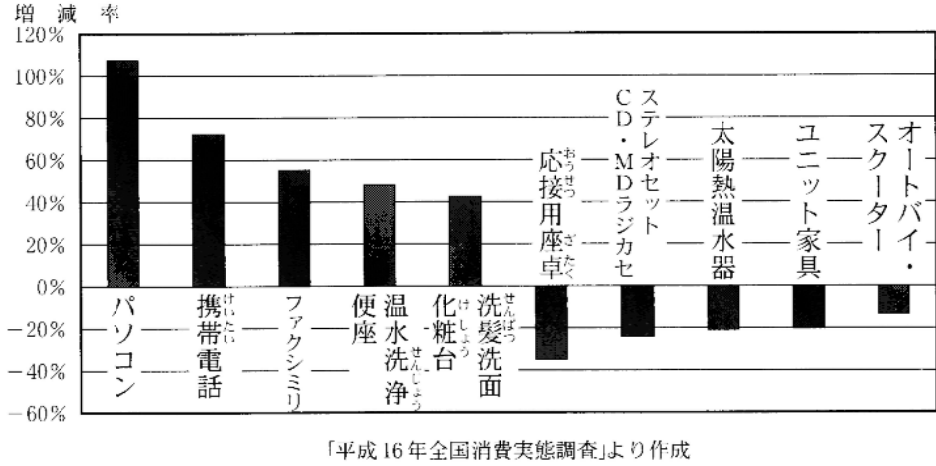
図－4と図－5の両方から読みとれる近年のCD生産量減少の理由を、次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 家の応接室にステレオセットやCDラジカセを置かなくなったので、CDを聴く時間が減ったから。
- イ 携帯電話を使ったサービスにお金を使うようになったので、CDを買うお金の余裕がなくなったから。
- ウ パソコンを使ってCDを直接注文するようになったので、お店にCDを買いに行くことが減ったから。
- エ 目立ったヒット曲がなく、上手な歌手もいないので、CDを買う魅力が減ったから。
- オ さまざまな新しい製品を買う一方で、給料があまり増加しないので、CDを買うお金の余裕がなくなったから。

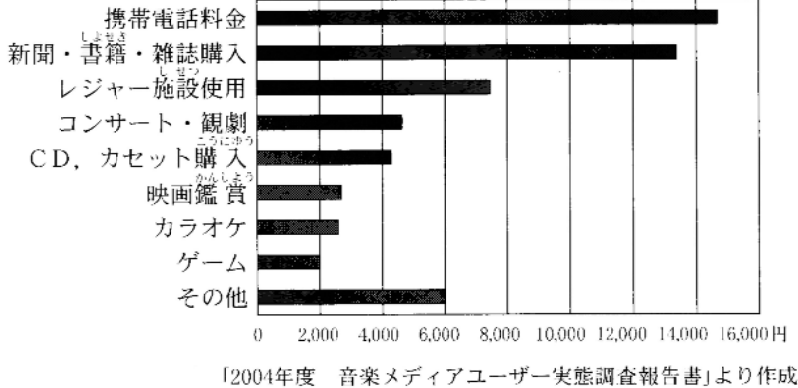
図－3



図－4



図－5



1

問 1				
問 2				
問 3	問 4		問 5	問 6
問 7				
問 8				
問 9				
問 10				

2

問 1	問 2			
問 3				
問 4				
問 5				
問 6	I	II A	II B	
問 7				

社 会	
受 番	験 号